2014年3月19日発行 ■発行責任者／長谷川利彦 ■編集・制作／(株)プロトリオス ■発行／(株)NGP 東京都港区高輪3丁目25番33号 長田ビル2F TEL03(5475)1200 定価／1部30円

NIPPON GOOD PARTS
NGP NEWS
2014 No.276
全国整備工場の皆様へNGP組合員200拠点がお届けするお役立ち情報 3月号

日整連、平成25年度「自動車分解整備実態調査」を公表

自補修市場は縮小傾向へ、しかしながら認証工場は増えています。その理由は？

平成25年度（2013年度）における自動車分解整備業実態調査の概要がこのほど、日本自動車整備振興会連合会（日整連）から発表されました。総整備売上高は前年の5兆2,982億円から5兆4,217億円と、1,235億円アップしています。事業場（工場）数は9万1,867工場から9万1,933工場に増加しています。前年との比較においては、大きな変化は見られませんでした。

ところが、平成20年度（2008年度）から6年間の推移を検証しますと状況は異なっています。平成20年度の総整備売上高は5兆7,720億円、整備事業場数は9万518工場です。それとの比較においては、売上高が2,503億円減少しているのにも関わらず、1,415工場が増加しています。

平成20年の1工場当たり年間売上高は6,377万円、それが平成25年には5,897万円へと減少しています。5年間で1工場当たりの売上高が500万円目減りしていることとなります。率に直せば約8%の落ち込みです。整備市場規模が縮小し認証工場の微増傾向が続く中、単純計算ではありますが従業員数、整備要員（工員）数がいずれも、ほぼ横ばい状態にあることを勘案すれば、1人当たり生産性が低下傾向にあることにほかなりません。

さかのぼって、整備業界の最盛期の日整連の「自動車整備白書」によれば、平成7年度（1995年度）の総整備売上高は6兆5,693億円でした。同時期の工場数は8万3,198、1工場当たり年間売上高は7,896万円です。現状と比べるとその格差の大きさに驚かされます。

総整備売上高は1兆1,476億円減少、率にして17.5%の縮小です。一方、工場数は8,735社増えています。1工場当たり売上高は1,999万円減り、25.3%低下しています。平成7年といえば、バブル経済の崩壊から5年後で、景気の影響が数年遅れで現れる自動車アフターマーケットの特徴を表しています。それにしても、現状との落差が激しすぎるといえるでしょう。

市場が明らかにシュリンクしているにも関わらず、整備事業場が増え続けているのです。果たしてこうした現象が、国内の異業種で見られるのでしょうか。そこで、中小零細企業団体の指導に当たる、全国中小企業団体中央会（中央会）に聞いてみました。

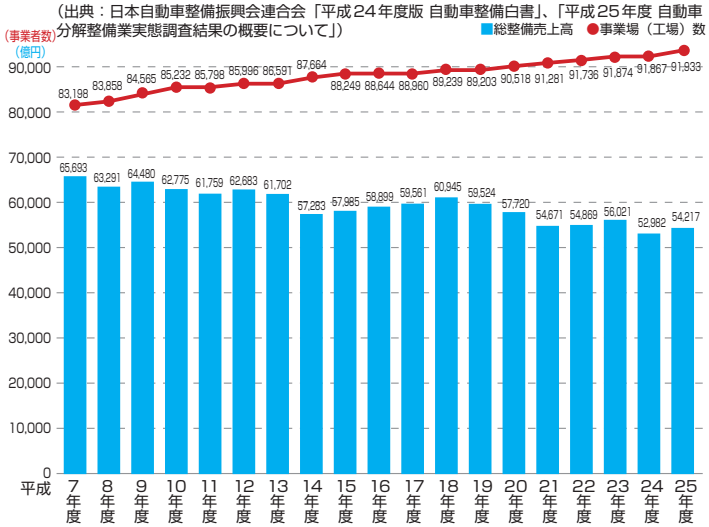
中央会によれば、「現在、事業場が増加傾向にあるのは福祉・介護の業界のみで、その他の業種では概ね減少基調にあります。それは、業界の消長に左右されているからに他なりません」とのことでした。

今年は2014年危機と、4月からの消費税増税が控えています。加えて、8,000万台超えを達成した自動車保有台数も、間もなく減少局面に突入します。さらに人口減少も顕著となります。

一体、売上高が減少しながらそれでも整備事業者が増えるという現象は、いつまで続くのでしょうか。

総整備売上高および事業場数の推移

（出典：日本自動車整備振興会連合会「平成24年度版 自動車整備白書」、「平成25年度 自動車分解整備業実態調査結果の概要について」）



業態別／作業内容別整備売上高

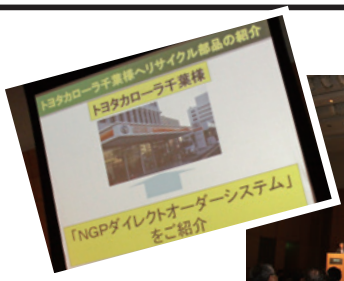
（出典：日本自動車整備振興会連合会「平成25年度 自動車分解整備業実態調査結果の概要について」）

業態	作業内容		車検整備 2年	車検整備 1年	車検整備 小計	定期点検整備 1年	定期点検整備 6ヵ月	定期点検整備 3ヵ月	定期点検整備 計	事故整備	その他整備	合計
専・兼業		売上高	8,308	3,903	12,211	493	134	256	883	5,879	7,775	26,748
		増減額	+71	-123	-52	+31	+11	-35	+7	+522	+562	+1,039
		増減比	+0.9%	-3.1%	-0.4%	+6.7%	+8.9%	-12.0%	+0.8%	+9.7%	+7.8%	+4.0%
	専業	売上高	5,975	3,312	9,287	345	102	224	671	4,491	5,873	20,322
		増減額	+42	-64	-22	+13	+4	-30	-13	+373	+469	+807
		増減比	+0.7%	-1.9%	-0.2%	+3.9%	+4.1%	-11.8%	-1.9%	+9.1%	+8.7%	+4.1%
	兼業	売上高	2,333	591	2,924	148	32	32	212	1,388	1,902	6,426
		増減額	+29	-59	-30	+18	+7	-5	+20	+149	+93	+232
		増減比	+1.3%	-9.1%	-1.0%	+13.8%	+28.0%	-13.5%	+10.4%	+12.0%	+5.1%	+3.7%
ディーラー		売上高	6,954	979	7,933	1,557	226	75	1,858	6,276	9,038	25,105
		増減額	+105	-275	-170	-24	+25	-50	-49	+255	-20	+16
		増減比	+1.5%	-21.9%	-2.1%	-1.5%	+12.4%	-40.0%	-2.6%	+4.2%	-0.2%	+0.1%
自家		売上高	678	160	838	119	20	49	188	586	752	2,364
合計		売上高	15,940	5,042	20,982	2,169	380	380	2,929	12,741	17,565	54,217
		増減額	+151	-468	-317	+50	+9	-44	+15	+873	+664	+1,235
		増減比	+1.0%	-8.5%	-1.5%	+2.4%	+2.4%	-10.4%	+0.5%	+7.4%	+3.9%	+2.3%

（単位：億円）

あいおいニッセイ同和損害調査、「2013年度全国好取組み発表会」を開催

NGPダイレクトオーダーシステムの紹介事例を通じ生産力強化への決意を新たに



NGPダイレクトオーダーシステムの紹介事例を披露した千葉技術調査部のプレゼンテーション

あいおいニッセイ同和損害調査(株)（以下、AD損調。早川佳明社長）は3月3日、あいおいニッセイ同和損害保険(株)（以下、AD損保。鈴木久仁社長）本社センチュリーホールにて「2013年度 全国好取組み発表会」のチャンピオン大会を開催しました。

この発表会は、AD損調全国各地の技術調査部が、日頃の調査・研究活動や代理店のバックアップ、営業部門との連携など、様々な取り組みを発表し、共有化を図るためのものです。

3回目となる今回のチャンピオン大会には、鈴木社長をはじめAD損保の役員も多数ご来場された中、NGP協同組合の長谷川利彦理事長、玉木基裕専務理事もご招待いただき、全国150事例からチャンピオン大会まで勝ち残った、8つの調査部によるプレゼンテーションをご披露いただきました。

そのうち千葉技術調査部の発表では、「自動車保険等級制度改定後の修理費低減ニーズに応えるため、リサイクル部品を活用したい」というトヨタカローラ千葉(株)からの要請を受け、NGPダイレクトオーダーシステムを紹介したという事例が披露されました。

損害調査の現場でもリサイクル部品利用促進の機運が高まっており、NGP協同組合としては、より多くより高いヒット率でお客様へリサイクル部品をご提供するため生産力強化に一層の取り組みを強化すべきとの決意を新たにしています。

同会では審査員により即日投票が行われ、組織表彰は埼玉技術調査部が、個人表彰は甲信越技術調査部の中畑勇二さんが第一位に選ばれています。

AD損保・鈴木社長（右）、AD損調・早川社長（左）、長谷川理事長（中央）

NGP協同組合と東日本自動車解体処理協同組合が業務提携

ハイブリッドカーなどの解体・資源抽出技術力向上、資源の国内循環実現を

調印式で握手を交わす坪理事長(左)と長谷川理事長(右)

NGP日本自動車リサイクル事業協同組合（長谷川利彦理事長）と東日本自動車解体処理協同組合（坪千代志理事長）は3月4日、自動車の解体技術およびリサイクル部品の生産・販売ノウハウ提供に関する業務提携を締結しました。

NGP協同組合と東日本自動車解体処理協同組合は、部品取り車両の仕入れ競争激化や、ハイブリッドカーなど次世代自動車の普及に伴いこれらの精緻な解体技術と資源抽出技術が必要となっていることなど、業界を取り巻く様々な課題について議論を重ねてきました。その結果、互いの持つ強みと弱みを補完し合うことが可能と判断し、両組合は業務提携に至りました。

東日本自動車解体処理協同組合は、自動車解体における精緻な解体技術を活かし、素材ビジネス領域での先進的役割を果たすことを目標に精緻な自動車解体技術等の研究を行い、各地で開催する研修会を通じてその技術の普及に努めています。今回の提携を機に、NGP組合員の研修会参加を受け入れます。

一方、NGP協同組合は、リサイクル部品のビジネス領域におけるシステム、生産・販売ノウハウを提供することで、東日本自動車解体処理協同組合員のリサイクル部品ビジネスへの参入を支援します。

同日にNGP本部（東京都港区）で行われた調印式では、長谷川理事長は「ビジネス領域のノウハウ提供については、我々にできることを一生懸命取り組んでまいります。一方、ハイブリッドカーの解体については、我々はまだまだ駆け出しですので、これから参考にさせていただき、共同販売も見据えて良い関係を構築していきたいと思います」と挨拶しました。

そして、坪理事長は、「これまで資源の国内循環を目指して取り組んできましたが、我々だけでは難しい面もありますので、NGP協同組合の皆様にもご協力いただき、きちんとした分別、精緻な解体、資源の確保につなげていきたいと思います。また今後、我々の研修会への参加をNGP組合員の皆様にご案内いたしますので、我々のメンバーにはリサイクル部品とそのビジネスに関するノウハウをご提供いただき、双方が業界内で繁栄できる体制を構築したいと考えております」と、業務提携後に両組合が目指すべき方向性を示しています。

NGP協同組合とアップガレージが業務提携

Webサイト「クルーバー」を通じ NGPリユース部品の販路拡大を目指します

NGP日本自動車リサイクル事業協同組合（NGP協同組合、長谷川利彦理事長）およびアップガレージ（石田誠社長）は2月1日、リユース部品の供給・販売に関する業務提携を締結しました。

アップガレージは、全国202店舗をフランチャイズ展開する、リユース部品をショップ販売する会社です。会員数は10万カーユーザーを超えており、その会員に対し多様な情報や各種サービスを提供することで、事業拡大を進めています。

昨年10月より車両・二輪車のコミュニティサイト「クルーバー」（https://www.croooober.com/）を立ち上げ、個人ユーザーからリユース部品を買い取り、整備点検後に、同サイトにリユース部品を出品・販売する新規事業を展開しています。

同サイトでの主力商品はオーディオ、ナビ、タイヤ、ホイールなどの中古カー用品で、現在は約30万点を出品していますが、会員顧客であるクルマ好きのカーオーナーから純正中古部品取り扱いを求める声が、アンケート調査で多数を占めていました。そのような品揃えの拡大・多様化ニーズに対応すべく、部品供給の提携先を模索していました。

一方、NGP協同組合は、組合員が生産・ストックする社外部品、電装部品、シートなどのリユース部品については販売実績が低く、その利用促進を課題としていました。これらの部品、とりわけ低年式車の国産スポーツカー向け部品等は、BtoB取引においてはニーズが低いものの、アップガレージの会員顧客であるクルマ好きにとっては希少価値があり人気部品とされています。

そこで今回、両者がそれぞれの強みを活かす形で販路および取り扱い品目拡大を目的とし、リサイクル部品利用促進に取り組むこととなります。

当面は、NGP協同組合組合員のうち、手挙げ方式で加盟店参加を希望する約30社が生産・ストックする社外部品、電装部品、シート等を中心に「クルーバー」へリユース部品を出品します。この組合員へは、アップガレージ営業担当者が、システム操作説明等を中心に個別訪問し、地域連携を含める関係強化を進める予定としています。

また、決済方法についてはアップガレージ本社と株式会社NGPが窓口となり、NGP組合員が一括相殺で決済できる仕組みをすでに構築しています。

NGP協同組合は、BtoC向けのリユース部品販売については、すでに他グループがヤフー、楽天市場などへの販路解放を進めるのに対し、最重要顧客である整備事業者への配慮から展開するのを差し控えていましたが、「クルーバー」が会員方式の専門サイトであり、取り扱い商品もバッティングしないことから、新販売チャンネルとして両社メリットの追求が可能と判断しています。

アップガレージが運営するコミュニティサイト「クルーバー」のトップページ

今後は事業拡大につながる諸課題を双方で協議しながら、販売拡大していく計画です。特にNGP協同組合は、既存の提携企業や、NGPリユース部品を取り扱う自動車整備・修理工場の紹介サイト・NGPエコひろば登録工場ネットワーク等とも共存共栄ができる将来像を検討しながら進化させたいと考えております。

アップガレージ本店の店舗外観および店舗内。国産スポーツカー用を中心に、多数の中古部品・用品が展示されている

NGP 今月のCO_2削減量

リサイクル部品利用に伴う削減効果

※NGPをはじめとしたリサイクル部品販売事業12団体は、グリーンポイントクラブを作り、リユース部品、リビルト部品を利用することで達成できたCO2削減量を利用者の皆様にお知らせしています。ご協力ありがとうございます。

NGP 平成26年1月：**7,045t**　NGP 1月からの累計：**7,045t**（全12団体 1月からの累計 **12,335t**）

リターナブル梱包材利用に伴う削減効果

※リターナブル梱包材の利用に伴う削減効果はNGP協同組合独自のCO2排出量削減の取り組みです。段ボールに代えて、専用梱包材を繰り返し使用することを前提に削減効果を試算しました。

NGP 平成26年1月：**20.6t**　NGP 1月からの累計：**20.6t**

NGP組合員かわら版

ハイブリッドカーセミナー出張研修会開催
HV車の適正な解体処理へ 座学と実技を通じ専門知識を習得

東北支部で開催された出張セミナーの様子。実車を用いた講師のていねいな説明に全受講生が熱心に聞き入る

これまで年１～２回、静岡県裾野市のあいおいニッセイ同和自動車研究所東富士センターで開催されていた「ハイブリッドカーセミナー」が、このほど出張研修会として、NGP協同組合各支部で開催されました。

同セミナーは、ハイブリッドカーやEV、PHVなど、高電圧バッテリーの分解整備を行ううえで、感電事故を防ぐため労働安全衛生法で受講が義務付けられている「低圧電気取扱特別教育」を実施するものです。トヨタTHS-ⅡやホンダIMAを中心に保有台数が増え続けているハイブリッドカーなどの電気・構造に関する基礎知識を、座学と実車を用いる実技で学び、安全・適正作業を習得するため、NGP協同組合では2008年１月の第１回よりすでに16回開催しています。

2009年に発売され大ヒット作となった現行３代目プリウスが発売からまもなく５年経過し、その後もハイブリッドカーの普及が進んでいることから、今後使用済み自動車として処理する機会はますます増加するものと予測されます。

そこで、既研修受講者の専門知識の再確認と、遠隔地の問題から受講者数が低調に推移している北海道・東北・北陸・九州の各支部組合員に受講機会を提供することで、NGP全組合員がハイブリッドカーの対応能力をさらに高めるべく同研究所の講師が各地へ出張し開催することになりました。

１月25日には福井県越前市の津田鋼業(株)で北陸支部25名、２月１日には宮城県仙台市のあいおいニッセイ同和自動車研究所仙台校で東北支部14名、２月22日には福岡県糟屋郡のあいおいニッセイ同和自動車研究所福岡校で九州支部14名が受講し、「低圧電気取扱特別講習」の修了証を取得しました。４月26日には北海道石狩市の(株)マテックELV石狩で、北海道支部が同研修会を開催する予定となっております。

第６回初級生産管理者・フロントマン研修会開催
NGPシステムを核とした品質統一と 適正価格の重要性を再認識

初級生産管理者研修会では石井講師が、売れ筋商品とその理由の的確な把握、利益の出る価格設定の重要性を説いた

初級フロントマン研修会では白石講師が「クレームのほとんどはその対応に怒っている」と実例を交えレクチャー

２月21～23日の３日間、BumB（ぶんぶ）東京スポーツ文化館（東京都江東区）で、第６回初級生産管理者・フロントマン研修会が開催されました。初級生産管理者研修会に45名、初級フロントマン研修会に21名が参加して、初日には双方ともNGPシステムの基本知識と運用ルールを学習しました。

２日目以降は生産管理者とフロントマンとに分かれ、生産管理者はリサイクル部品商品化システムの流れ、程度説明の標準化、商品定義、車両入庫マニュアルの詳細について説明を受け、正確かつ厳格な品質管理と商品登録の重要性を学びました。

フロントマンは、その基本理念、お客様対応の基本とポイント、保証規定を学習したのち、自己販売分析を通じて受注納品管理表から弱みと問題点を発見しました。さらに受注から商品の納品、売上計上までを実践的にシミュレートしました。

初級生産管理者研修会に参加した(株)栃木パーツの丸山真祐さんは「今回の研修は、明日からの仕事に役立つ、すぐに使える内容でした。NGPシステムの形状説明欄各記号の意味や、入力の考え方、注意点など、実務に基づいた考え方を教えていただきました。今後は経験を積み早く慣れ、またその時もお客様のことを考えて作業することを忘れないようにします」と、NGP三大信条のひとつである「お客様第一」の実践を誓いました。

初級フロントマン研修会に参加した(株)ユーアンドアイの篠原経汰さんは「この研修を通じて、生産とフロントは別々の仕事をしているのではなく、同じ仕事をしている仲間だということを学びました。そのことを意識しながらコミュニケーションを取り、会社全体の業務効率を上げ、１点でも多くの部品を販売していきます」と、心を新たにしました。

そして、「自分が登録した商品に愛着を持って、自信を持ってお客様に届けられるよう心掛けます」((有)富山商会金屋工場、細谷満弘さん)、「クレームから逃げることなく、言い訳もせず、お客様と向き合い信頼されるフロントマンを目指します」((株)テラダパーツ、辻侑樹さん）と、生産管理者、フロントマンとしての決意を表明しています。

組合員情報変更

支部	会社名	変更内容	変更後	変更日
北海道	有限会社オカダオートパーツ	移転	〒082-0005 北海道河西郡芽室町東芽室基線23番地12-2（電話・FAXに変更はありません）	26年3月1日

NGP日本自動車リサイクル事業協同組合事務局
〒108-0074　東京都港区高輪３丁目25番33号　長田ビル2F
TEL:03-5475-1208　FAX:03-5475-1209
http://www.ngp.gr.jp/

株式会社NGP
〒108-0074　東京都港区高輪３丁目25番33号　長田ビル2F
TEL:03-5475-1200　FAX:03-5475-1201
http://www.ngp.co.jp/